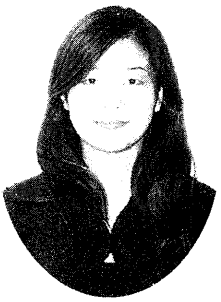
会員だより

「悩まされるこれからの土木」



大阪府池田土木事務所
河川砂防グループ
上成　純

はじめに～

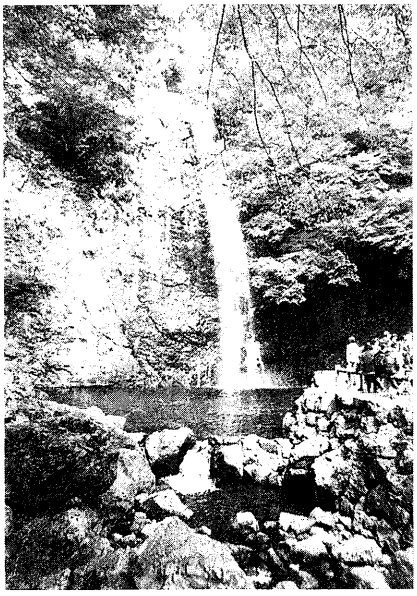
平成8年に大阪府に入庁して早いもので、6年が経ってしまいました。この6年間何をしてきたのか思い返したところ、仕事の記憶はあまりなく、海外旅行とダイビングとスノーボードを十分に楽しませてもらった6年間でした。私たちの採用以降、大阪府は採用人数が激減したため、後輩がほとんどいないので、何年経っても事務所の中では（かなり？）若手なので、新採気分からなかなか抜けきれていないような気がします。

現在、私は、池田土木事務所の建設課河川砂防グループに配属になって2年目となるのですが、ここは大阪府の中で最も北の豊能地域を管理している事務所で、北は人口約14,000人の能勢町から、南は人口約400,000人の豊中市を管理しており、大阪府の中でも自然がまだまだいっぱい残っています。“大阪”といえば、夜の街のようなイメージがあるかもしれませんが、池田土木管内では、夏には川で泳いでいる子供がいるし、冬には雪が積る場所もあり、紅葉に関しては、わざわざ旅行に行ったのに、帰ってきて現場へ行くついでに外を眺めた方がきれいだったことがあるほどなので、大阪出身なのですが、新たな大阪を見ることができ、“大阪も捨てたものではないな”と感じることもあります。

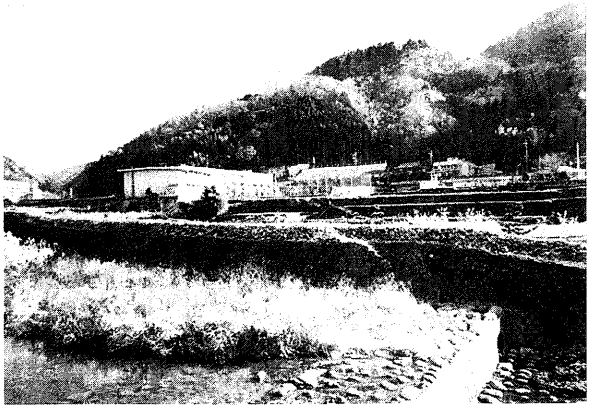
また、“大阪”での災害をいえば、阪神・淡路大震災ですが、その時はまだ学生だったので、当然災害復旧事業には関っておらず、入庁後も、災害に会ったことがないので、そんな私が“防災”について何を述べたら良いのかわからないので、この話が来た時にはかなり抵抗したのですが、その甲斐もなく、引き受けることになってしまいましたので、数少ない経験の中から、何か掘り出していこうと思います。

しごと～

池田土木事務所の前には、寝屋川水系改修工営所といって、都市河川事業を行っている事務所に所属していたのですが、そこでの“河川改修”は、内水浸水対策がほとんどで、地下河川や流域調節池などの地下に構造物を作っているため、完成しても地下深く、現場も地下のため、あまり日光があたらない季節感の薄い生活を送っていました。都市部の大規模な工事ばかりで、「？」の連続で、「ここは特殊だから」「こんな工事は二度とないかも」と言われていましたが、何が特殊なのかわかっていなかったのですが、今思えば、別世界にいた感じがしま

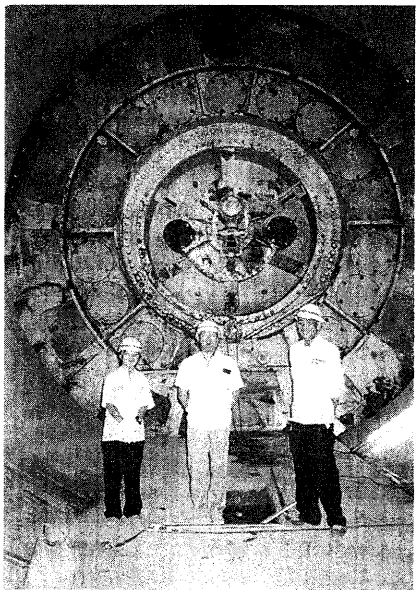


箕面の滝（箕面川）



箕面市下止々呂美　奥が急傾斜の擁壁、手前が余野川

会員だより



寝屋川北部地下河川シールドマシンの到達地点

す。

そんな都会？生活から、池田土木へ移動になった時には、まず、“山が近い”と思いました。そして、自然な河川が存在し、河の水は上流から下流へ流れ（以前は、潮位の影響で逆流していました）、川の水は透明（以前は“緑”のイメージが…）、夏場は川で泳いでいる子供がいたので（以前は、足をつける気にもなれない）日本中、どちらかといえば、あたり前のことに感動していました。（実は、池田土木に決まって一番楽しみにしていたのは能勢の秋鹿と池田の呉春（共に日本酒）ですが）

池田土木に移動になり、ここでも初めてのことばかりで、ここで砂防事業にも出会いました。これまでとは180度変わってしまった感じで、「何ですかそれ？」「そんなんあるのですか？」と、相変わらず“？”がいっぱいでした。

ここでは、大規模な河川改修はほとんど終わってしまっていて、残されたのは、昭和30～40年代に作られた年老いた護岸の補修工事（老朽化対策）ばかりで、多自然型護岸や環境保全型護岸と言われる中、時代に乗ることができず、頭を悩ましています。

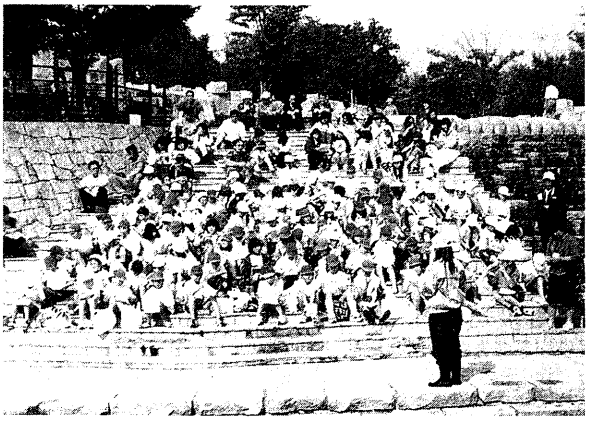
そんな予算が無い中なので、返って何ができるのか、最低限何を優先しないといけないのかと、まるで、高齢化の進んだ日本の将来のようだと思いながら、こんな時代だからこそ、考えさせられることは多いと思っています。

そんな中、ソフト面から地域の理解を求めることが、不可欠だと思います。そこで、昨年度から小学校の総合学習の中で、「水辺の学校」といって、川について少しでも児童に理解してもらおうと、簡単な学習会を行いました。大阪の市街地で過去に作った親水公園で行ったのですが、感想文を読ませてもらうと、「はじめて魚を捕ってうれしかった」や、「川に入ってはいけないと思っていた」、「ここの川はきれいなのを知った」など、実際に接してみることで、今の子供の環境や、教育の仕方などを知ることができ、私たちでは当然と思っていることが、地域には十分伝わっていなかったりしていることも知ることができたし、「川は遊ぶ場所。でも、雨が降ると増水するので危険。ごみをここに捨てると、下流の川が汚れる。」と、１つ１つ手をとって教えると理解してくれるので、地味なことかもしれませんが、無駄ではないと思いました。

山間部においても、「砂防出前講座」を行ったのですが、ここは、市街地とはまた違い、危険箇所図を見せると、「○○の家は危険だよ」と言い合い、土砂災害に対し危機感を持っているように感じました。そこで、どこにでも砂防施設を作ることはできないので、自分の身はまず自分で守ってもらうためにも、逃げ方、避難場所を常に知り、身の危険を認識してもらう場を設けることができたと思っています。

最初は段取り等、じゃまくさいと思っていましたが、このような時代に、このような形でソフト面から防災についての理解をしてもらうには、悪くない方法と今は思っています。

このようなイベントがあれば、常に司会をしているのですが、最初は、“結婚式の二次会の司会じゃないからきちんとしないと”と思っていましたが、回を重ねるごとにだんだん楽しむようになってきて、また、「どうすれば伝わるのか」「どのような物（どのような言い方）が記憶に残るのか」ということを考えながら進めるようになってきたので、土木だけによらず、良い勉強になっていると思います。作ることで手いっぱいになっていたらこんな考え方もできなかったと思うし、一方的な（役所っぽい）事業説明しかできなかったのではないかと思い、１回１回が良い経験だと感じています。



箕面川「水辺の学校」　右の隅にいるのが私（司会）

会員だより

おわりに～

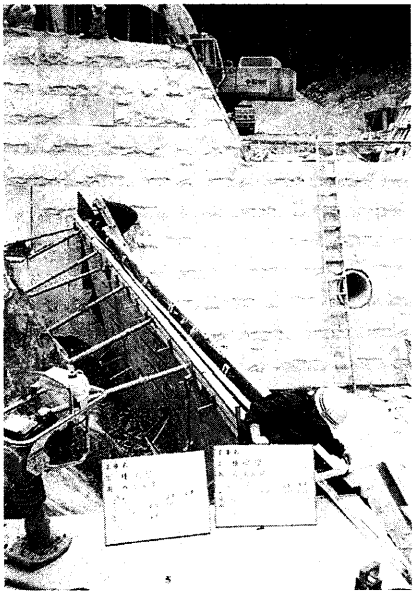
気が付けば土木を選び、この6年間、土木色の濃い生活になってしまっています。これから何年土木のお世話になるのかわかりませんが、あまり仕事人間にはなりたくないと思っています（周りはどう評価するのかはわかりませんが）。

新採当時から“仕事だけの生活になりたくない！”“ずっと楽しく仕事をしたい！”と思っていましたが、どうしても仕事を楽しむのは難しくなっています(実際、年々愛想が悪くなっているのが分かります)。私の性格上、何か楽しみがないと、やる気がでないので、目先の娯楽を目標にして、仕事をするのも自分を活気づかせる方法の1つと思っています。遊びに前向きならば、仕事も少しは前向きになりますので、この様な仕事のやり方でずっと続けられたらと思っています。

これからどんな仕事につくのか分かりませんし、いつまで仕事を続けることができるのか分かりませんが、自分にとって無駄なものにならないような仕事の仕方ができたらと思っています。これからもいろいろなことに遭遇すると思いますが、柔軟性を養うためにも、ただ職場と家の往復で留まらず、おいしいものを飲んだり食べたり、いろいろな国へ行っていろいろな文化に触れることで自分自身も大きくなっていきたいと思っています。そしていつまでも自分らしく過ごして行けたらと思います。

最後に、正直、この依頼が来て、はじめて今まで投稿されてきた方のを読ませていただきました。皆さん楽しそうに過ごしているようですが、きっと皆さんは、事務所にはほとんど女性がいないと思います。土木を選んだ以上、こんな環境であることは覚悟の上かもしれませんが、やっぱり何年も全く一人だけしかいなければ、きっと寂しいだろうと思います。大阪府の土木女性職員は現在、10人くらいいて、平成6年から8年の間に集中して採用しているので、それぞれ配属先はバラバラなのですが、みんな仲が良いので（と、私が思っているだけ？）、仕事ではイライラすることが多くても、一人で追い込まれてしまう前にストレス発散ができる環境になっていると思います。まだまだ、ほとんど女性職員がいない所もあると思いますが、どこかで土木女性職員同士で会うことがあるかもしれませんが、その時はお互い仕事をぬきにしてストレス発散し合えたらと思います。

だらだらと意見を述べさせていただき読み辛いところばかりかと思いますが、ここまで読んでいただきありがとうございました。



小樽にて

防災課だより

〔河川局関係人事発令〕

△平成14年2月28日付

辞　職

（総務課予算総括係）　矢澤　保夫

辞　職

（防災課水防係長）　橋本　努

人事異動

△平成14年3月1日付

総務課予算総括係

（保全課総務係）　川原林雅志